34歳

壮大なドラマの展開
苦・喜び・充実

鳥取県倉吉市立西郷小学校　松本勝男

山なしの授業は11月20日に開始され、12月4日に終了した。
その後、論文書きが始まり、家庭学習となり、12月25日が締め切りであった。
本作文集には、児童の評論文の中から、入選１１編が所蔵されている。
原紙切りは、児童がそれぞれ自分の分を担当した。
向山学級三代目の「やまなし」の作文集がそうであったように、この四代目の「やまなし」の 評論文も、歴代向山学級の後輩に贈る挑戦状である。
「私たちはここまで来た。みんなはもっと前進されんことを！」というあいさつである。

「向山学級四代目一同」

作文集の冒頭の言葉である。
挑戦状という名にふさわしい作文集である。
読んでいて身が斬られる思いがする。
四代目の壮絶な自分との格闘を連想し、向山氏の執念の深さに思いを寄せる。

1　人間には人間だけの生き方がある

主題がわかる

評論文からプロットを抜き出してみる。

◇　Ⅰ序論
　　Ⅱ本論
　　一　視点
　　(一) 全文による視点の形
　　(二) わたしと話者の関係
　　二　色
　　(一) 生に関する色

ア．白
イ．金
ウ．黄金
エ．青白
（二）死に関する色
ア．黒
イ．銀
ウ．鉄色
エ．赤
（三）まとめ
三　対語で書く
（一）色に対する対語
ア．白対黒
イ．金対銀
ウ．黄金対鉄色
エ．赤対青白
（二）景色や様子に関する対語
ア．明るい対暗い
イ．日光対月光
（三）場所に関する対語
ア．上対下（うえたいした）
イ．上対下（かみたいしも）
（四）物や生き物に関する対語
ア．かばの花対かにの子供ら
イ．魚対丸石
ウ．かわせみ対あわ
エ．光のあみ対かげ法師
（五）対語でない対語
ア．５月対12月
イ．動物界対植物界
四　会話
五　賢治の心
（一）最初と最後の文について
ア．言葉の意味と対語
い．「ちいさな」の場合
ろ．「谷川」の場合

は.「底」の場合
に.「写した」の場合
ほ.「二枚」の場合
へ.「青」の場合
と.「げん燈」の場合
イ. 文の言いまわしについて
い.「の」について
ろ.「であります」について
(二) 造語の回想
い. イサドについて
ろ. クラムボンについて
は. やまなしとは
に. やまなし対クラムボン

六　主題

Ⅲ結論

原稿用紙31枚にものぼる大作である。名取伸子さんは12月21日から始め、24日に書き終えている。

いろいろな書物を調べ、小学生とは思えないほどに充実した内容である。

プロットの立て方についても実に精密である。

きっと、並々ならぬ向山氏の指導があったものと思う。

○宮沢賢治は妹が死んで、深い悲しみに沈み、やまなしにあこがれた。でも、宮沢賢治はあることに気づいた。宮沢賢治は動物であり、人間である。人間はきたない心を持ち、情けという言葉の意味を知る人はあまりにも少ないかも知れない。しかし、宮沢賢治は人間であり、人間は、人間でしかいられないのである。

人間は動物にあこがれてはいけない。人間は、人間の姿のままが、一番あっているのである。人間には人間だけの生き方がある。

宮沢賢治の第二の人生は、ここから始まる。

彼女の主題である。

大人の私以上に考え、精魂込めて書き連ねている。

人間というものがどういう生き物かを問い詰めた結果が凝縮されている。

成長し大人になった現在の彼女が、どんな考えで生活されているのか、一度あ

ってお話を聞きたい気持ちがする。

2　生死の世界

討論も、予習も復習も、遠回りをしてやって来たが勉強も、すべてが楽しかった。
わたしの勝利は、これからの文学の勉強の上で支えとなり、すべての勉強に役立つであろう。

○この物語のテーマは、死した物もまた生ある物と同じく命あり、死してより美しく生ある者の心によみがえる、というのである。この意味は、魚にたくさんされている。魚は、元気に泳いでいたが、かわせみに食べられてしまったが、その後で、生あるカニの心に回想となってよみがえり、言葉に出たということである。花というのを例にとってみると、花というのは、咲いている時だけが、美しいのではなく、枯れてまたより美しく人の心によみがえり、安らぎをあたえるというものである。と同じく、魚もよみがえったのである。宮沢賢治は、妹が心によみがえったことを喜んで、それと同時に、熱のある暖かい血潮の通った体のない妹を悲しみながら、この物語（やまなし、つまり妹の命）を書いたのであ る。

東ようこさんの主題である。
自分なりの論を展開し、主題を結論づけている。
これも分析批評の学習の成果であろう。
プロットの立て方から察すると
学習の内容は、１．視点
２．対比　色、語句
３．主題
の順に進行したのではないかと思われる。
が、プロットも個人個人が自由である。統一されている様子はない。
わたしにとっては、未だに、この峰を極めることはできない。

松本勝男（まつもと　かつお）＝法則化サークル　山陰なしの会